

基地のない 平和な沖縄をつくらう

1日目

初日は、県民広場から出発し自衛隊基地前を通り西崎運動公園で昼食をとりました。午後のコースは、西崎運動公園から糸満ロータリー向けに歩き、真栄里入り口に入りました。真栄里入り口前では、20分程、妨害に遭い行進する事もできませんでした。真栄里に入り、南部戦跡コース団長・高教祖の金城比呂子先生のアナウンスで、慰霊碑などの説明を聞きながら給水ポイントに向かいました。給水ポイントから、到着地点のひめゆりの塔までの妨害はあったものの、沖縄の気温より熱い行進団の熱いシュプレヒコールをしながら無事にゴールしました。



2日目

2日目は、平和祈念公園から昼食場所である南城市中央公民館に向かいました。出発式では、国籍を問わず沖縄戦で亡くなった24万余の全ての戦没者に弔いの意を込めて黙祷を掲げました。当日のコースは道幅も狭く、雨も降っていて足元が悪いままの出発でした。ですが、行進団の熱い思いが、雨も止ませ昼食地点では、すっかり晴れてとても暑かったです。午後は、南風原町役場まで歩きました。2日目のコースは、起状が激しいコースで、到着時間も少し遅れてはいましたが無事にゴールしました。



第42回 5・15 沖縄平和行進

5月16日に3単産全国の仲間が沖縄入りし、県立武道館にて5・15全国結団式が行われました。今年も南部戦跡コースの副団長を全港湾が担い、全国結団式で沖縄地方青年女性部部長金城雄介が「南部戦跡コースの副団長として安全にコースを引っ張って行く」と決意表明を行いました。全国結団式終了後、琉球サンロイヤルホテルに移動して3単産・結団式を行いました。3単産の団長に全港湾東北地方の矢内誠也、副団長に全港湾関東地方の寶納雅行、全国一般の南守、全日建の晋山邦弘を選任し「平和行進に向け一致団結して頑張っていきましょう」と声をあげました。終了後の平和学習会では、講師に沖縄タイムス記者の阿部岳氏をむかえ、今の沖縄の辺野古新基地・高江ヘリパットの現状等を勉強しました。

3日目

3日目は、宜野湾市役所から出発し、南ウイングコース・北ウイングコースに分かれ、米軍普天間基地を囲うように宜野湾市海浜公園に向かいました。最終日でもある3日目は、行進団の疲れも感じないほどシュプレヒコールが続きました。南ウイングコースは、信号機右折が多く大変ではありましたが、無事に宜野湾市海浜公園につくことができました。午後からの県民大会では、約2,000人が参加され、辺野古新基地建設反対、基地のない平和な沖縄をつくらうと声を上げました。



最後になりますが、平和行進に参加された三単産の皆様、街宣車を派遣した横浜支部、先導車を担当した横浜支部の新井さん、アンプ調整をして下さりました中央本部、青年部をサポートして下さいました沖縄地本の皆様、本当にありがとうございました。この熱い思いを胸に、これからも平和活動、組合活動を頑張っていきます。(沖縄地方青年女性部部長 金城雄介)



LOCAL

田子の浦支部

全労済地域学習会に参加して



5月27日、全労済地域学習会が富士市文化会館ロゼシアターにて開催されました。5月1日に平成から令和に年号が変わり、全労済も6月1日に「こくみん共済COOP」と愛称が変わりました。

田子の浦支部では、組織内保障として組合費より団体生命保険、慶弔共済に加入し、組合員の生活保障の充実を目指しております。また、在職中にしっかりと積み立てをし、退職後の「安心の毎日」という事で、新たに全国港湾新ねんきん共済の取り組みも始めました。私的保障についても積極的に推進しております。

近年、全国で頻発している自然災害は私たちの身近にも起こりうる可能性があります。特に2018年の台風ではかなりの災害を受けてしまいました。全国で16万件、530億円もの共済金が支払われたそうです。我々港湾労働者も常に自然災害と隣り合わせにいます。いざという時のためにも組合員、そして家族のためにも、安心した保障を推進していきながら、組合活動の一環として活動して行きたいと思っております。



マスコットのピットくん



無人の中、缶ビールだけがライン上を流れていく

機械化してもイレギュラーは人間が対応

人間がいないと成立しない



機械化できない部門もある

全国港湾

港湾労働セミナー

自動化が進んでも

6月3日から5日にかけて全国港湾の第16回港湾労働セミナーが兵庫県神戸市内のホテルで開催され総勢65名が参加した。今回は東日本と西日本に分けての開催の内、西日本のセミナーとしての開催であった。

ITF東京事務所の瀧所長、岡山大学の津守教授、全国港湾の玉田書記長、こくみん共済COOPの渡邊・海永氏からそれぞれ講演を受け、グループに分かれてディスカッションをおこなった。

そして、レクレーションを兼ねて、自動化の現場でもある明太子工場とビール工場の見学をおこなった。工場内はオートメーション化がなされていて、無人の中で製品だけが完成していく様子に「これが港湾の将来の姿か?」とため息も漏れていた。しかし、その反面、イレギュラーの処理や検品等の部署にだけは必ず人がいて、どんなに自動化が進んでも人間がいないと成立しない部署があることに一同頷いていた。

